

2023年12月23日

第5回外国人児童生徒等教育研修

講義Ⅰ

文化間移動する家族と 就学前段階の子どもの 教育課題

齋藤ひろみ

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育推進ユニット

オンライン第3回研修のねらい

海外からの、あるいは国内で、家庭・学校間での文化間移動を経験している幼児とその家族の教育・支援のための視点を持つ。

小学校入学前の多様な言語文化背景をもつ子ども（就学前）とその保護者のために開かれた、プレスクールの運営とそのカリキュラムから、また、地域支援として実施されている就学前の日本語講座の活動と地域との連携から、接続期において求められる支援について学ぶ。

上記の講義・報告で学んだ幼児期の子どもと家族ぐるみの支援を参考に、自身の現場の問題や課題の解決のための具体的なイメージをつくる。

「豆の木モデル」 外国人児童生徒等教育を担う 教員の資質・能力モデル



資質・能力の4要素と課題領域		求められる具体的な力
捉える力	子どもの実態の把握	文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。
	社会的背景の理解	外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的な文脈に位置付けることができる。
育む力	日本語・教科の力の育成	外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。
	異文化間能力の涵養	外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。
つなぐ力	学校づくり	保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。
	地域づくり	異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。
変える/変わる力	多文化共生社会の実現	社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる。
	教師としての成長	外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。

<p>研修で目指す具体的な力 (求められる具体的な力より)</p>	<p>内容構成 (A~N)</p>	<p>小項目</p>
<p>イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。</p> <p>エ 認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。</p> <p>ト コミュニケーションの仕方等を工夫して保護者との信頼関係を築き、学校の教育活動への参加を促すことができる。</p> <p>ヌ 子どもの学びが広がりと連続性をもったものになるように、地域の他校、あるいは保幼小中高の連携を進めることができる。</p>	<p>D 文化適応</p> <p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p> <p>F 言語と認知の発達</p> <p>K 社会参加とキャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化間移動とライフコース ・文化接触 ・母語・継承語教育 ・子どもの言語発達 ・社会参加とことばの力

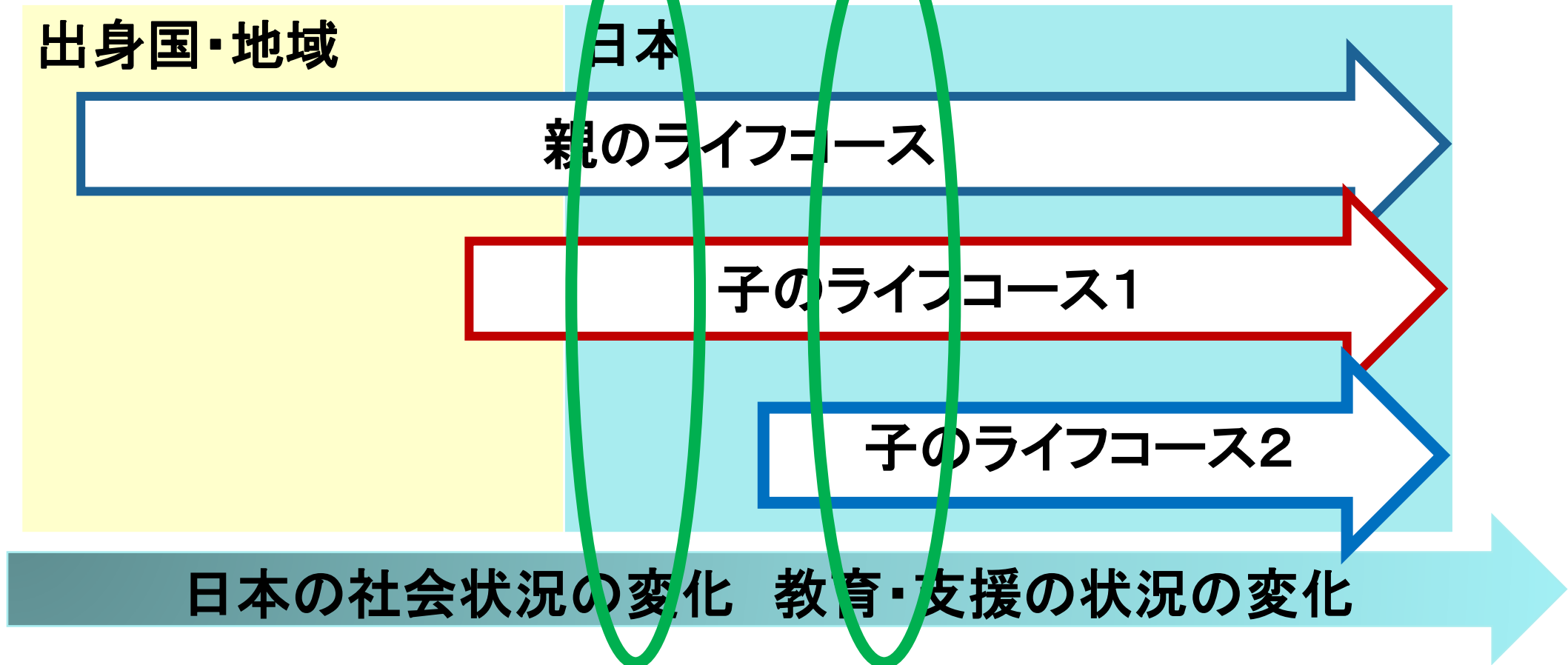
講義Ⅰ

文化間移動する家族と
就学前段階の子どもの
教育課題

1 文化間移動する家族 ……子どもたちの教育

親は日本で教育を受けた経験がない:

一人目の子育て……日本の学校教育・学校文化の違いの理解が必要
就学前の支援の重要性



2 接続期の問題

接続期：幼稚園・保育所等から小学1年生に移行する時期

新たな社会システムに入る大きな変化

成長の節目（幼児期から児童期へ）

※ 変化に対応・調整できない場合とその後の学習などに支障も

海外から日本に来た家族の場合・・・

子どもの戸惑い

- ・日本語での集団行動
- ・学校のことば
- ・生活の流れ・学習の仕方
- ・友達との関わり方

幼稚園・保育所等の
経験がない子どもたち
...ギャップはさらに大きく

保護者の戸惑い

- ・学校の制度
- ・行事
- ・親としての関わり
- ・お知らせ文書

2009 愛知県が『プレスクール実施マニュアル』を作成
外国人幼児を対象にした
プレスクールの実施が全国的にも広まる

3 幼児期のことばの発達—児童期にかけて

幼児期のことばの発達①

就学前<一次のことば>

具体的現実場面で、特定の親しい人と、具体的な事柄について、対面(双方向)で話す。(話しことばのみ)

学校生活で<二次のことば>

現実場面を離れ、不特定多数の他者に向け、ある事象や事物について、一方向で自分で組み立てて伝える。(話しことば+書きことば)

岡本夏木(1985)『ことばと発達』岩波新書 p.52

養育者の語りかけ

ことばの機能・語意・統語の規則を発見するための手がかり

- 韻律(音の特徴で)
テンポ 音の高低 誇張・強勢
- 会話の継続
話す順を交替(言語・非言語で)
- 共同注意とラベル付け
- 構造化場面での話す機会の提供
ゲーム・日課を通して

参考:岩立志津夫・小椋たみ子編『よくわかる言語発達(改訂新版)』
ミネルヴァ書房

養育者が子どもとコミュニケーションがとりやすい言語で！！

3 幼児期のことばの発達—児童期にかけて

幼児期のことばの発達②

萌芽的リテラシー

読み書きの学習の前に、日常の暮らしや遊びの中で、文字の存在・機能や、文字と音との関係に気づくなど、文字に関する経験的知識を身に着けている。文字に関心をもち、大人の真似をして、疑似的に読んだり、書いたり...

参考: 岩立志津夫・小椋たみ子編『よくわかり言語発達(改訂新版)』
ミネルヴァ書房

市役所で

子: パパ、何、書いているの?

父親: うん? 住所、書いているんだよ。

子: ボクも書く! ○○市△町2-3-5。

(父親に用紙をもらうと、ペンをもって、住所を声に出しながら、文字らしきものを書き始める)

読み聞かせ

家庭での会話では耳にすることのない書きことば(語彙、表現、構成等)に接する機会

○語彙

前後の文脈から意味を推測

○表現

書きことばの表現に出会う

○内容の構成

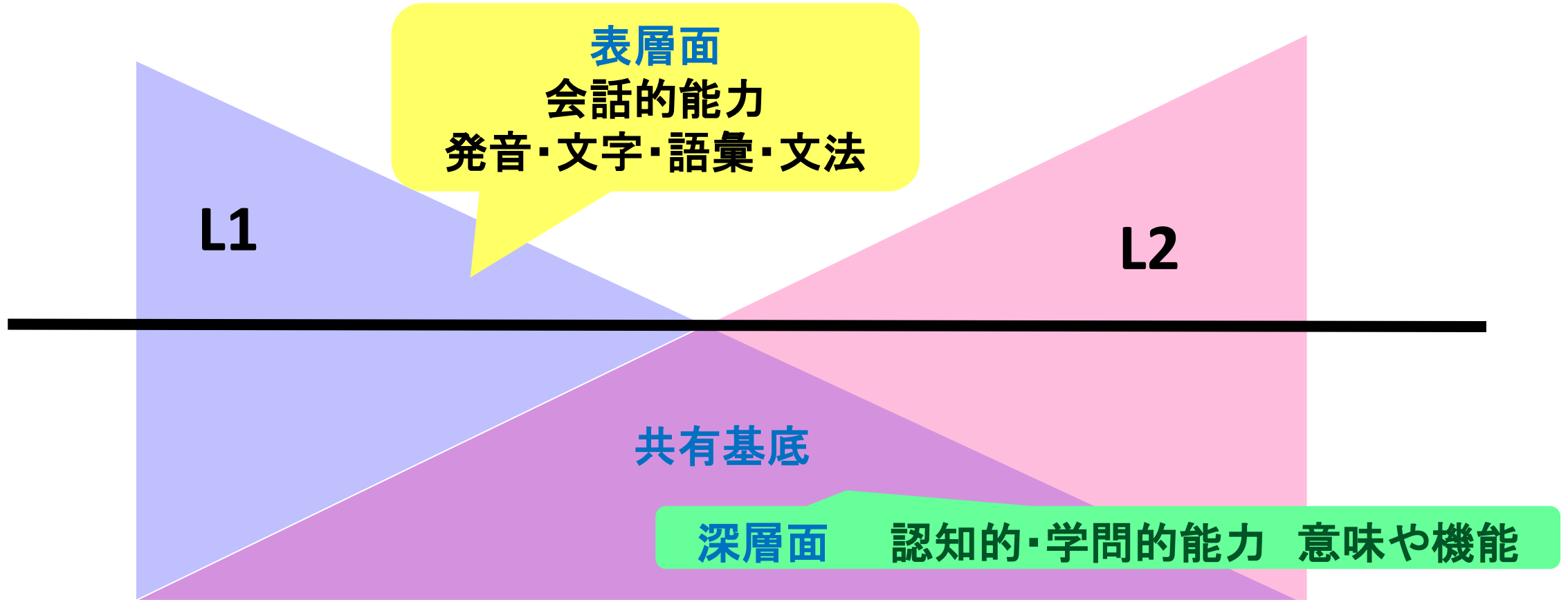
一方向での伝達

物語や科学読み物等、ジャンル別の構成

コミュニケーションとして
想像力や多様な感じ方を育むためにも

参考 母語と第二言語との関係

(カミンズの相互依存仮説)



母語の役割: アイデンティティ、自尊感情、認知的発達

4. 子どもの社会化

社会化とは：個人が他者との相互作用のなかで、生活する社会や集団の知識、技能、価値、行動等を学びながら、その成員として参加できるようになる過程

子どもの社会化：自分を取り巻く社会的な役割の内面化

役割取得は他者との相互作用による

養育される**家族集団**



家族の社会構造のなかでの位置
(社会的経済的位置、民族的背景、所属宗教)と
人間関係が影響を及ぼす

家族以外の重要な他者(友達とその家族など)

プレスクール・支援教室で
出会うスタッフや先生

講義のまとめ

文化間移動する子どもとその家族への就学前の支援について 捉え直しのためのポイント

- 1 保護者・養育者も、日本の学校について十分には知らない
- 2 接続期の子どもたちの困難は、文化的差異が重なる大きなもの
- 3 幼児期から児童期にかけて、ことばの発達には大きな転換
- 4 子どもの社会化にとって、「重要な他者の存在」が必要



就学前の子どもたちとその保護者のための
地域支援・プレスクールの役割